

くすりと健康のはなし

薬包紙

第30回



一般社団法人岐阜県薬剤師会
理事 棚瀬友啓

業」を計画実施しております。

◆薬の飲み方や使い方など医薬品の適正使用に関する相談

◆血圧計などの検査機器を用いた健康サポート

◆在宅医療に関するアドバイス

薬剤師集団は、少子化・超高齢化・人口減少の社会の大きな変化が起ころうとしているこの変革の時に「この街に薬剤師がいなければ困る!!」と語っていただけのように、「街の薬局」「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」として皆様方に身近に感じていただける姿をめざして、地域医師会、歯科医師会、介護関係職種・団体や地域行政と密接な連携体制を取り果敢に挑戦しています。

私の所属する「もとす薬剤師会」のホームページには是非お立ち寄りください。「わたしの街の薬剤師・薬局」を実感していただけたらと思います。

最後になりますが、10月25日(土)に「薬と健康のつどい2014」薬剤師によるお薬相談会」を長良川国際会議場4階で12時00分より開催いたします。(参加無料・申込み不要)「あなたの健康をサポートする薬剤師」が待っております。

※問合せ…岐阜県薬剤師会事務局

TEL 058-260-8800

先日、高校時代の親友と37年ぶりに会うことになり、その彼が「昔の薬剤師さんは「痛い、痒い」の相談にのつてくれて薬を選んでくれていたのに、今は処方せんを渡されて調剤するだけのイメージやわあ」とハチのひと刺し。彼に悪気は全く無いのですが、調剤薬局で従事する私には、向こう脛をおもいきり蹴られた心境でした。

今、薬局薬剤師は医療・介護の分野で劇的な変化が起ころうとしている環境下で「顔の見える薬剤師」をキーワードに、薬剤師が地域の「入ひとりの方々に何ができるのか?地域住民の視点で心のこもった対応がなされているか?と自問自答、試行錯誤の毎日です。

薬局から飛び出し、地域サロンでの「薬と健康食品の話」、「在宅医療で薬剤師ができること」、老人クラブ等の生涯学習講座での「ちゃんとお薬飲んでピンピンコロリで100歳まで」、「保育支援センターでの「ヤングママお薬相談」等において薬の適正使用や健康相談の重要性を皆様方にお伝えしております。

現在、薬剤師会では、厚生労働省及び岐阜県のご支援の下、「薬局・薬剤師を活用したセルフメディケーション推進と、健康増進サポートのモデル事

「健康づくりをサポートする薬剤師」